

令和7年度

事業名	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第42回大会
期 日	令和7年5月17日（土）～18日（日）[情報交換会5月16日（金）]
参加者	1日目：356名 2日目：218名 参加者延べ人数 574名
テーマ	「人づくり」こそが未来を創る ～「現代教育の忘れもの」を問う～
<p>SDGs（持続可能な開発目標）が国連で採択されて以降、「持続可能な」を冠したテーマが増えました。「持続可能な地域づくり」もよく目にします。持続可能性が掲げられるということは、現実には「今のままでは持続が難しい」という認識があるからでしょう。SDGsではさまざまな課題解決の目標が掲げられていますが、考えてみると（当たり前のことですが）問題を起こすのも解決するのも社会を動かすのも「人」です。すなわち将来を見据えた「人づくり＝教育」こそが持続可能な未来を創る鍵であると言えます。</p> <p>残念ながら、子どもたちの心配な状況があります。子どもの数は減少しているのに、不登校状態の小中学生 34 万余人、11 年連続増加で過去最多、いじめ認知件数も過去最多、自殺した児童・生徒は過去 3 番目の多さ（2024 年、文科省）と報告されています。SNS を介して犯罪に手を染めたり巻き込まれたりする若者も後を絶ちません。学習指導要領では長く「生きる力」の育成を掲げてきましたが、その力は期待通りに培われているでしょうか。子ども・若者の健やかな成長・発達は、個人にとっても社会にとっても最重要課題です。</p> <p>約 40 年前、三浦清一郎先生（当時、福岡教育大学）のもと、青少年教育キャンプを実施、その教育理念、指導原理と成果を『現代教育の忘れもの』として刊行しました。提案は人生を生き抜く力を育む体験を盛り込んだ「欠損体験の補完」プログラムであり、自立のトレーニングです。結論だけを言えば、子どもたちは「やればできる」、「できないのはやっていないから」でした。生活様式の変化に加えて過保護の風潮も逆風でした。私たちの 40 年前の懸念は今、さらに深刻になっていると感じます。家庭も学校も地域社会も何を忘れてきたのか、未来のために何が必要か、青少年教育の原点を見つめ直したいと特別企画を考えました。</p> <p>今年も「未来を展望する素材」となる 24 事例が集まりました。時代の厳しい状況の中でも、過去の蓄積を大切にしつつ新たな試みに挑戦する取組、試行錯誤しながら前向きに地域の人づくり・つながりづくりに奮闘している方々の熱気が伝わってくる実践の数々に勇気づけられます。ご推薦いただいた各県実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。</p> <p>本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに厚く御礼申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 大島 まな</p>	

交流会の様子（発表内容及びプログラム）

【5月16日（金）】

情報交換会 19:00～21:00



【5月17日（土）】

10:00～10:30 開会式



10:30～12:20 実践発表（午前） 12事例発表（3事例×4会場）

- 持続可能な地域学校協働活動事業に向けて
～地域と学校をつなぐ公立公民館の取組～（福岡県八女市）
八女市黒木公民館館長 安徳 和幸 氏
- 奄美群島日本復帰70周年記念の取組（鹿児島県大島地区）
大島教育事務所社会教育主事兼専門員 野村 貴幸 氏
- 移住者と地元（じげ）をつないだ公民館自主講座
「まなびや～ひのたに学舎～」（鳥取県日野郡江府町）
江府町公民館自主講座「まなびや～ひのたに学舎～」世話人代表 前川仁三夫 氏
- 子どもの“ワクワク”が社会を動かす！
～地域×企業×行政×大学×個人で探る新しい学びのカタチ～（長崎県長崎市）
cotoco（株）代表
長崎県社会教育委員ワクワクハンター 柳 まり子 氏
- 地域全体で子どもを育てる体制づくりと社会教育委員
～答申書「地域学校協働活動の充実」に関する取組を通して～（福岡県大川市）
大川市教育委員会生涯学習課社会教育主事 松延 聡 氏

○公民館は可能性の塊!!!

～地域を耕し、人を繋げ、住民から愛される公民館～（島根県鹿足郡吉賀町）

柿木公民館主事 円山 洋輔 氏

○今、わたしたちにできることは何か？（愛媛県新居浜市）

新居浜次世代ネットワークアドバイザー 伊東つづみ 氏

新居浜次世代ネットワークアドバイザー 立花 日和 氏

○全国の自治体初！生涯学習・社会教育行政における学びの履歴のデジタル化！

～いつでも、どこでも、スマホで提示！オープンバッジの可能性！～

（広島県広島市ほか）

広島県立生涯学習センター振興課社会教育主事 吉長 愛 氏

株式会社ネットラーニング教育事業部営業チーム 村澤 孝経 氏

○スポーツの力で元気な子ども達を育てるしくみ

～地域スポーツクラブ（社会体育）の可能性を探る～（福岡県糟屋郡宇美町）

NPO法人ふみの里スポーツクラブゼネラルマネージャー 藤木祐一郎 氏

○コミュニティ・スクールにむけたPTA活動の4年間

～子ども達が通いたくなる学校づくりを目指して～（沖縄県豊見城市）

豊見城市立伊良波小学校学校運営協議会副会長

豊見城市立伊良波小学校PTA会長 山崎 新 氏

○「ママが笑えば子どもも笑う」

0歳も100歳も互助で共に学びつながら地域の輪の活動（佐賀県唐津市）

地域互助力向上ネットワーク0-100(ゼロひゃく)地域の輪代表 中島 直子 氏

○紙芝居が取り持つ、子ども達と高齢者の心のつながりを栄養に（宮崎県都城市）

紙芝居まねきねこの会代表 久保田哲寛 氏

紙芝居まねきねこの会 久保田章子 氏

紙芝居まねきねこの会 島田由美子 氏

13:50～15:40 実践発表（午後） 12事例発表（3事例×4会場）

○「市子連」と「市教委」が両輪となった空前絶後の子ども会活性化策

（鹿児島県鹿屋市）

鹿屋市教育委員会生涯学習課主査 中村 明博 氏

○公民館と自治振興会の両輪で住民パワーを生かした地域づくりに関する研究

（島根県飯石郡飯南町）

飯南町谷公民館主事 高橋 利英 氏

○アンコンシャスバイアスに気づく旅

～平和を願い「つくる」ための対話と学び～（熊本県熊本市）

一般社団法人teamはちどり代表理事 高木あゆみ 氏

○朝市を復活させた鬼嫁たち手作りの松崎名物「三八市」

～かつての賑わいをもう一度～

三八市実行委員会会長 野口智恵子 氏

三八市実行委員会 小芦 洋恵 氏

三八市実行委員会 三津國美枝子 氏

- 市民向け生成AI講座「AI探検隊」(佐賀県伊万里市)
IX-Party (ナインパーティー) 代表 上原 泰三 氏
- 子どもも大人も心が軽くなる居場所づくりに関する研究
～こころの銭湯「まんまある」の取組～ (山口県防府市)
宇部市立東岐波小学校教頭
まんま会代表 貞平 理恵 氏
- 10周年を迎えた記念行事が地域のつながりを具現化!
～芝生化された小学校のグラウンドが地域のつながりを育んだ～ (山口県山口市)
山口市立名田島小学校地域学校協働活動推進員 菅 新汰 氏
- 子どもたちの「自己肯定感・対話力・郷土愛」を育むために
～美里町におけるコミュニティ・スクールと
地域学校協働活動の一体的な推進を通して～ (熊本県下益城郡美里町)
美里町教育委員会学校教育課総合教育アドバイザー 上田 英二 氏
美里町教育委員会地域学校協働活動推進員 大原 明恵 氏
美里町教育委員会地域学校協働活動推進員 宮崎 保 氏
- 学校教育課題に応える学校運営協議会制度の役割と成果
～別府市立石垣小学校学校運営協議会10年間の取組～ (大分県別府市)
別府市立石垣小学校学校運営協議会委員長 中川 忠宣 氏
- 「楽しい」市民活動の乱発が、ネットワークではない新たなつながりを生む
～元益田市派遣社会教育主事が取り組む新しい市民活動の育成～ (島根県益田市)
益田市立戸田小学校教頭
元益田市派遣社会教育主事 谷上 元織 氏
- 「冒険的組織」と「弱いつながりの強さ」が生み出す地域と学校の変革
～岡山県高梁市の学校地域の共創事例～ (岡山県高梁市)
Happy Collaboration 合同会社代表
高梁市教育委員会学校連携コーディネーター 横山 弘毅 氏
- 薩摩川内市の人材養成講座
～「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を目指す効果的なプログラム～
(鹿児島県薩摩川内市)
薩摩川内市教育委員会社会教育課社会教育指導員 東原 辰巳 氏



16:00~16:30 特別報告

口演「教育が社会を変える～今こそ意識改革～」

報告者 矢野 大和（「笑わせたいわ笑学校」校長・鷹鳥屋神社宮司）



17:00~19:00 第42回大会交流会



【5月18日(日)】

特別企画 「青少年教育の原点と『未来の必要』

～今、改めて問い直す社会教育の役割～

9:00～10:10

第1部「家庭教育調査結果にみる保護者の実態と社会教育の役割

～40年間で何が変わったのか、何が必要なのか、何ができるのか～

鼎談 森本 精造 (元飯塚市教育委員会教育長)

菊川 律子 (放送大学名誉教授・社会教育士)

石津 峰 (福岡県立社会教育総合センター参事兼社会教育振興室長)



10:20～11:30

第2部「子どもを核にした人づくり・地域づくりと社会教育の底力

～地域が子どもを育む！益田市の挑戦～

登壇者 大畑 伸幸 (特定非営利活動法人おむすび理事長・

元島根県益田市教育委員会ひとづくり推進監)

聞き手 古市 勝也 (九州共立大学名誉教授)

木原 忠 (前宇美町町長)





参加者の声

<実践発表>

- 思い・願い・大切なキーワードをたくさんいただいた。
- 少しでもよりよい未来をと奮闘されている発表者に心を打たれた。
- どの発表も熱い思いが伝わってきた。パワーをいただいた。
- 自分の活動に役立てたいところがたくさんあった。
- バリエティ豊かな各地からの事例はどれも参考になり、新時代に向けての示唆に富むものだった。
- これも社会教育という幅の広さで、今まで自分には関わりのなかった事例に会えるのがよかった。
- 活動することで自分も楽しみ、パワーを生み出されていてとても良い学びだった。
- 私たちは未来をデザインしていかなければならないと感じた。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について、とても参考になった。
- 誰と活動するのか。協働するには意識を育てるところから始めなければならないと思った。

<特別報告>

- 三浦清一郎先生のご遺志を継ぐ迫力ある報告だった。
- 多様な参加者がいる中での話し方について、私自身も勉強になった。
- 30分と短い時間にたくさんのお話について触れて、笑いながらも考えさせる口演でとてもよかった。
- 楽しいことを途中でやめる我慢が必要というのが印象的だった。
- 笑いの中で大切なことを教えてくださいました。
- 社会教育は広い。自分はまだまだだと考え自信がないと思っていたが、がんばりたいと思った。
- あっという間の30分だった。その中で貴重なメッセージをたくさんいただいた。

<特別企画第1部>

- 長期にわたる調査を分析していきつつ、現代教育の欠落を改めて見つめ直す機会となった。
- データに基づいて分析し、これからどのような意識をもって取り組んでいけばよいか考えることができた。
- コロナ禍後の大きな違いなどを考えるきっかけとなった。
- 子育て・家庭教育と女性の社会進出、とりまく環境について意義深い講演だった。
- 家庭教育力の低下が叫ばれているが、子育ての基礎基本を伝えない社会、核家族化、地域力の低下等、様々な原因があること、また、いろいろなお話やデータ等を知ることができて、とても参考になった。
- 今年から今大会のテーマと同様な思いから「子どもと親の家庭教育」に関する事業を始め、データの参考値や過去からの流れなど自分が知らないことを知ることができて、とても参考になった。
- 子育てはOJTであるとはまさにその通りだと感じた。

<特別企画第2部>

- いろいろな視点からのお話を聞くことができ、とても楽しかった。「対話」の大切さを改めて感じた。
- 「社会教育が魅力的なプログラムを用意し、選ばせることが大事」という言葉が印象に残った。
- 益田市の18年間のひとづくり・つながり・あたたかさが伝わってきた。
- 「対話はスキル！」が心に残った。対話を通してつながりを広げたり深めたりしていく取組を実践していきたいと思う。
- 学校と地域の連携について非常に参考になった。自分の身近なところから教育をよりよくする手立てをやっていこうと考えることができた。

<その他>

- 分科会を行き来することができてよかった。
- つくづく大会とは参加者も一緒につくり上げるものだと実感した。この館内では誰もが同志であることのできる、しあわせな空間だ。
- 初めての参加だったが、とても学びの多い2日間となった。
- 学び多き、楽しき多きの会だった。「来てよかった」と心底思う。
- 学校の中に社会教育が入る、まきこむ。地域学校とは関係なく何ができるのかやってみるが大切だと思った。
- とても楽しく過ごすことができ、他県の方とのつながりができた。
- 様々な立場の方が集い、熱い想いを語り合い、とても楽しく刺激をもらう場所と思う。